
バトルスピリッツ 激震の勇者

ブラスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルスピリッツ 激震の勇者

【Nコード】

N6404X

【作者名】

ブラスト

【あらすじ】

主人公達が住む町は陽昇マヒルという男が作ったリアルバトルフィールドでみんな楽しくバトルスピをやっていた。だが、その街である少年少女たちを巻き込んだ事件が起ころうとしていた。

バトルスピリッツ激震の勇者 キャラ紹介（前書き）

この話は、今放送中のアニメ「バトルスピリッツ覇王」と所々接点があります。

また、そのバトルスピリッツ覇王のキャラが小説に登場させようと思ってるので是非ご期待ください！

バトルスピリッツ激震の勇者 キャラ紹介

初めまして！ブラストと申します。

今日からバトルスピリッツの小説を書いていきたいと思っています。

私は初心者なので、皆様の小説と比べたら面白みのない小説になるかもしれませんが、温かい目で見守っていただくと嬉しい限りです。

まずは早速キャラ紹介から書いて行こうと思います。

・若槻和人（わかつきかずと）

本作品の主人公。15歳の少年で赤デッキの使い手。

キースピリットの「剣皇龍エクスキャリバス」を相棒と呼び、様々なカードバトラーと戦う。

・木野咲（きのさき）

和人とは幼馴染で、15歳の女の子。

緑デッキを使うが、まだまだバトスピ経験は浅い。

・来道リクト（らいどうりくと）

15歳の少年、白デッキの使い手。木野や和人とは大の仲良し。

昨年ガンスリンガーで川村と戦うが、惜しくも敗れる。

・川村劉（かわむらりゅう）

昨年のガンスリンガーを好成績で通過した15歳の少年（？）。

青デッキの使い手で、粉碎などをメインとした攻めで相手をデッキアウトにさせる。

ただひたすらに強さに拘り、誰かに頼るのを嫌う。

以上4人のキャラ紹介です！

「エクスキャリバス」など少し古めのカードを紹介していますが、
勿論バーストなどの最新カードも話に登場させようと思ってます！

これからぜひよろしくお願いします！

第1話『出会いの始まり』（前書き）

はい！やっとな話が出来！

そして一話目から現在放送中のアニメ、バトルスピリッツ覇王のあのキャラが登場！面白いかどうかは不安ですが、ぜひ見てみてください。

第1話『出会いの始まり』

『メインステップ!』

とあるテレビ画面でバトルスピリッツで対戦している二名の人物が映される。一人は帽子をし、その帽子からはみ出した髪は青色の少年らしき人物。もう一人は白デッキを使っている、金髪の少年。

今の状況は互いのライフが三で白デッキの男の場には機人フィアルLv.2と翼神機グランウオーデンLv.2が一体ずつ。もう一人の場にはグランガッチ、ロックゴレムLv.2が一体ずつ、ネクススは”崩壊する戦線”が二枚のみ、そして第7ターンを迎え、青年のターン。

『マジック発動”マジックドリル”と”マジックハンマー”を使用』

『またデッキ破壊か!』

マジックドリルの効果は相手の手札と同じ枚数デッキを破壊。そしてマジックドリルは相手デッキを5枚破壊。今、相手の手札枚数は5枚、つまりマジックハンマーの効果と合わせて、10枚デッキを破壊される。

『じゃあそろそろ終いだ、オリハルコンゴレムをレベル2で召喚』

『!?!』

どこからか青い宝石のような物が出現し、それが砕けたかと思うと地面が大きく盛り上がり、そこからオリハルコンゴレムが現れる。

”グオオオオオオオ——ッ！”

『さらにグランガッチと合体（ブレイヴ）させる』

ワニの姿をしたグランガッチがオリハルコンゴレムと一体となり、BPが11000となる。

『行け、合体（ブレイヴ）スピリット』

プレイヤーがアタックを命令したと同時に、スピリットの目が青く光り、次の瞬間、機人フィアルはグランガッチの合体時能力で破壊される。

『ライフで受ける！だが、フラッシュタイミング、デストラクションバリアを使用！これにより転生を持たない合体（ブレイヴ）スピリットを破壊』

オリハルコンゴレムはそのまま突っ込み、飛び上がると同時に大きな爪を振り下ろす。プレイヤーの周りにバリアのような物が展開されるが、オリハルコンゴレムの攻撃の前に簡単に破壊されてしまう。

だが、オリハルコンゴレムが相手のライフを削り、地面に着地したと同時にデストラクションバリアの効果によって破壊される。

『どうだ！』

『？……だからどうした？狙いはライフじゃなくてデッキだけど？』

『なっ！？』

そう言われると同時に自分のデッキを確認するが既にデッキ枚数はゼロ。そしてその後、ターンエンドを宣言し、相手のターンになるが、ドローできなくなった事で負けが確定し、そのまま決着してしまう。

『お、俺の負けだ』

そして次に画面が変わり、アナウンサーの女性が現れる。

『さあ今のが、チャンピオンシップ一回戦の試合です！これが決勝戦と言っても過言ではない試合を展開してくれた青デッキ使いの川村劉選手の対戦動画でした！そして早速彼にインタビューでも――』

続きを言おうとした瞬間、”ブチッ”とテレビの切れる音がする。

「やっぱすごいぜ！バトスピ！」

さっきまでテレビを見ていたその少年はソファを立ち上がり、さっきの映像の感想を言う。彼の名は若槻和人。15歳で彼もまたバトスピが大好きな少年なのだ。

「かつこいいよな、よし！もう我慢できねえ！早速バトスピセンターに直行だぁー！ッ」

すぐさま赤いデッキケースを持つと、玄関を飛び出しバトスピセンターというバトスピ専門の店へ足を急がせるのだった。

——バトスピセンター

バトスピ専門店。それがバトスピセンター。

この店では、たくさんのバトスピカードを取り扱ったり、店中に置かれた台座でバトスピをプレイしているたくさんの人達。

「うおおおおッ！」

和人は店のすぐ目の前まで駆け寄るとそのまますごい勢いで店へと入店する。

「いらっしゃ——って、和人君か」

「おーっす店長！」

「今日は遅かったね、知り合いの咲ちゃんは今とつくに來てるよ？」

「マジ!?!」

和人とは顔馴染みの様子。この人物は村井知恵という名前でバトスピの知識に関しては群を抜くほどで、ここのバトスピセンターの店長をしているらしい。そして村井の言う咲とは、和人の幼馴染の女の子、木野咲のことだ。

「あつ、和人！どうしたの？遅かったじゃない」

「おお！実はバトスピニュース見ててすっかり遅れちゃって」

「はあ、和人らしい。まあ、さっさとバトルしない？」

「いいね！俺のデッキと早速バトルだ！」

そんな会話をしながら二人は台座にデッキを置き、バトスピの対戦を始める。

——10分後……。

「はい、ガブノハシでアタック」

「ら、ライフで受ける」

最後のライフが削られ、和人の敗北が確定。

「はあ、まだバトスピ経験浅い私に負けるなんて」

「しょ、しょうがないだろ！今のは手札回りが悪かったんだ！フレームサイクロンとかバスタージャベリンが来てれば！」

「前はそれを加えた手札で、レイニードルやディノニクソーが来ればとか言ってた？」

「うっ！」

ちなみに言つとこれまでの二人の対戦成績は10戦中で木野が6勝4敗、和人が4勝6敗。

経験で言つと和人の方が上なのだが、実力はまだ初心者同然の木野より若干下。簡単にいえば、まだ彼は実力的に十分ではないという事だ。

「まあ、もしかして私がバトスピ経験があるのかな？」

「くそぉー！」

もう一回と頼みこもうとする和人。だが、彼がそのお願いをする前に突如周りの人達から「おおー」という声が聞こえてくる。

「！、やだ、今の勝利はまぐれなんですってば」

「おい木野、言っとくけどお前じゃないらしいぜ？」

「えっ？」

ふと後ろを見ると、そこでは髪型がアフロでサングラスをかけた一人の男性が既に何人共バトルし連勝しているからだ。

『すげえよ、もうこの人10連勝中だ』

『戦ってみたいけど、俺じゃあ手も足も出ないんだろっな』

観戦している何名かの声が聞こえてくる。

それを聞いていた和人はデッキを持ち、その人の所に歩み寄る。

「さあ、次の対戦相手は誰かな？誰でも受けて立つよ？」

「はい！はい！！はい次、俺やります！」

「おお、いいよ！君の名前は？」

「若槻和人！おじさんは？」

「俺の名は、人呼んでアフローヌ！さすらいのカードバトラーさ！」

自信満々な様子で決めポーズを決め、名を名乗るアフローヌと言う人物。

「アフローヌ？ま、まあともかく！早速バトルお願い！」

「おっと、ちょっと待って。君さっきそちらの女の子とバトルしてたよね？」

「ええ？まあそうですけど」

アフローヌと言う人物は木野を示しながらいい、その言葉に和人は頷く。

「その対戦を見てふと思ったんだが、少し君のデッキを見せてくれないかな？」

「ああ、はい」

言われるままに和人はデッキをアフロウヌに渡し、デッキを見てもらう。

「ふうん、ロケケラトプスやディノニクソーの軽量スピリットにフレ임サイクロンやトライデントフレアの除去系マジックがあるのか」

「ど、どうですかね？」

「確かに君のデッキはイイ感じだけど、もうひと押し足りないね」

「どつという事ですか？」

「赤は本来攻めることが最大の基本だ。だけど、君のさっきの戦い方を見て思ったが、君はどちらかというと守りの向けの戦い方をしていたね」

「ええ、中々BPの強いスピリットがなくて」

「ふうん、どうやら君のデッキには運命の一枚がないらしいね」

「？」

「ただカードの効果がいいとか、見た目がいいという理由じゃなくて、自分が心の底から何かを感じたカード、それが運命の一枚だ！」

「運命の、一枚」

「よかつたらカードを購入してみたらどうだい？少しの間待ってあげるよ」

「はい！」

すぐさま駆け出し、商品の棚にあるブースターパックを見る。

『どうだい？どれを買うか決まったかい？』

「少し待っててくださいーい！」

大きな声で返事をするも、全部で14弾もあるブースターパックのどれを買うか中々決められずに迷っている状態だった。

「あれ和人君？カードを買うのかい？」

「あつ！店長。まあね」

「へえ、でもどれを買うか悩んでるようだね。まっ、じっくり選んでよ」

「はい！つて、店長それは？」

和人はふと知恵の持っている一つの箱が気になる様子。

「ああ、第7弾のパックが切れたからね、在庫から持ってきたのさ」

「へえ、確か第7弾つて、どんなカードがあるんでしたっけ？」

「ええ」と、確かメテオヴルムやビャクガロウとか、アレクサンダーとかかな？」

「うーん……」

「あれ？もしかしてこれが気になったの？」

「ま、まあそんなところです」

「へえ、じゃあ少しお安くしてあげようかな？」

「いいんですか！」

「どうする？これにする？」

「はい！」

お金を渡し、知恵から第7弾のブースターパックを受け取る。

「よし！じゃあバトルしに行ってきます！」

・
・

「中身確認しないの！？それに後少し待てば例のあれがもうすぐ――」

続きを聞く事なく和人はアフローヌが待っている場へと急ぐのだった。

「おじさん！カード買ってきましたよ！」

「随分早いね。早速開封したらどうだい？」

ゼエ、ゼエと荒々しい息を一通り整えると、和人は直ぐにそのパックを開封する。

「そのパックは第7弾か。いいカードが当たるといいね」

「はい！」

開封後、中身のカードを取り出し一枚一枚をじっくり見つめる。
そしてその中の一枚に和人はふと氣に取られる。

「このカード……！」

「どうだい？いいカード手に入った？」

「はい！何だかさっきおじさんが言ってたみたいにビビッと感じました！」

ブースターパックの中にあつたうちの一枚、「剣皇龍エクスキャリバス」というカードを取り出しながら言う。

「へえ、中々いいカードじゃないか」

「はい！俺、早速こいつをデッキに入れてぜひ勝負お願いします！」

「いいよ！じゃあ早速始め——」

『おゝい！和人君！！』

バトルを始めようとした矢先、それを止めるかのように知恵が現れる。

「店長！どうしたの？」

「ハア……ハア……どうしたのって、今日はあれが届くって前から言ってたでしょ？バトルするならそこでどうかなって」

「？」

「ああー！確かこの店でもついにあれが届く日だったね」

アフロー又は何かを思い出したかのように言う。

「あれ？」

「和人、陽昇マヒルって人知ってる？」

「ううん」

首を横に振りながら和人は答え、それに木野はあきれた様子だった。

「あのね、陽昇マヒルはリアルバトルフィールド、つまり人類最大の発明をした人でしょ？」

「ああそう言えば！確かこの店でも！」

「そう、そのバトルフィールドがこの店でも設置されるのよ」

「そうだった、そうだった！リアルバトルフィールド、俺ぜひそこでバトルしたいと思ってたんだ」

「そうか」

その言葉を聞いたアフローヌは笑みを浮かべながら口を開く。

「だったら、今から僕とやる試合はそこでしないかい？」

「えっ！」

「君も運命のスピリットを手に入れたようだし、大迫力のフィールドでスピリットと会いたいだろ？」

「はい！ぜひお願いします！！」

「そう言う事なら、ぜひこの店のフィールドで戦う第一号として頑張ってね二人とも！」

「「勿論！」」

それだけ言うと、二人はステージの前まで行き、他の観戦者達はステージの横にあるモニターを必死に眺める。

「じゃあ、二人とも、あのセリフは言えるよね？」

「勿論！行くよおじさん！」

「ああ、それじゃあ始めるか！」

「ゲートオープン！開放！！」

二人がその言葉を放つと、光に包まれ二人はその場から消え、リアルバトルフィールドへと移動するのだった。

第1話『出会いの始まり』（後書き）

いかがでした？ 第一話！

和人「何か色々駄作だけだな」

木野「まっ、次からは頑張つてよ」

頑張るからさ、批判はやめようね。

次回は主人公の第一バトル！ぜひご期待ください！

ちなみに今回はアニメでも登場したアフローヌが登場！今後もアニメキャラが登場するかもしれませんがぜひよろしくお願いします。

第2話『剣龍皇エクスキャリバス爆進!』（前書き）

はい、お待たせしました！バトルスピリッツ 激震の勇者、第2話の公開です！相変わらず文章力がなく、面白いかどうかは不明ですが、一目見ていただくと嬉しい限りです。

第2話『剣龍皇エクスキャリバス爆進!』

「おお！これがバトルフィールドか〜！」

大迫力のステージに立ち、興奮気味の和人。

「感動してるとこ悪いけど、早速始めないか？」

「あつ！はい！行きますよ、おじさん！」

先行は和人からで、試合は始まる。

「スタートステップ！」

和人の言葉に反応するかのように台座が光り、その後ドローステップを行い一枚ドローステップ。

和人の手札4枚↓5枚。

「行くよ！メインステップ！ディノニクソーをLv・2で召喚！」

コスト1のディノニクソーに3コアを乗せて台座に置くと、ルビーの宝石がどこからか現れ、それが砕けると小さな恐竜、ディノニクソーが現れる。

「ウォーッ！すっげー！！すっげー！！ディノニクソーがこんな目の前に！」

「そうか、君は確かスピリットを間近で見るのは初めてだよね？初のスピリット召喚の感動は確かに分かるよ」

「はい！こんなにリアルなディノニクソーを見て感激です！」

「はは、その気持ち確かに分かるよ。さあまだ君のターンだ。続けてくれ」

「ええ」と、俺はこれでターンエンドです」

第2ターン。

アフローヌはスタートステップを行った後、コアステップとドローステップを行う。

アフローヌ手札4枚↓5枚 コア4個↓5個。

「メインステップ！さあ今度は俺の番だ。リユザードを二体召喚！内一体はLv・2だ」

さつきデイノニクソーが現れた時と同じ要領で、ルビーの宝石が二つ出現し、それが砕けると二体のリュザードが出現する。

「行くぜ、アタックステップ！Lv・2のリュザードでアタック！ここでリュザードのアタック時効果発動！」

・リュザードLv・2のアタック時効果。
自分の赤のスピリット一体につき、BP+1000。

「俺の場合には二体の赤スピリット、よってBP+2000で4000だ」

リュザードの周りに赤い波動が集まり、リュザードのパワーが高まり、そのまま和人へと突っ込んでいく。

「（BP4000じゃ、デイノニクソーでブロックしても相討ち。無闇にデイノニクソーを破壊される訳にはいかない。ここは……）」

「さあ、この攻撃はどうする？」

「ライフで受けます！」

和人の周りにバリアが展開され、そのバリアにリュザードが真正面から突進し、そのバリアを砕く。

”パリーンッ！”

「痛あッ！！」

和人残りライフ5↓4。

ライフで受けるとそれなりの衝撃がプレイヤーを襲い、後ろに後退させられる。

「大丈夫かい？」

「つつ……まだまだ！この痛みが次のチャンスにつながるんですから！」

和人の言葉と共に、リザーブにさっきライフで受けたコア一つが置かれる。

「OK、中々いい気合だ！まだまだ勝負はこれからだね！」

「はい！」

「じゃあ、俺はこれでターンエンド」

—— 第3ターン。

和人はスタート、コア、ドローステップを行う。
手札4枚↓5枚 コア5個↓6個。

「メインステップ！ディノニクソーをレベルダウン！」

ディノニクソーからコアを二個リザーブに戻し、それによりディノニクソーはLv・1となりBPは1000と、パワーダウンする。

「さあ一気にいきますよ！レイニードル！アンキラーザウルスを召喚！」

レイニードルとアンキラーザウルスどちらにもコアを二個ずつ置いた後、二つのルビーが出現し、それが砕けると、レイニードルは突如現れた雷雲から、アンキラーザウルスは地面を突き破るようになて現れる。

” ” ガアアアアアアアアアア —— ツ！ ” ”

レイニードルとアンキラーザウルスの二体の咆哮がフィールド中に広がる。

「ううっ！レイニードル、アンキラーザウルス！やっぱかったいい！」

新たな二体のスピリットを見て、さらにテンションが上がる和人。

「低コストスピリットを並べて場を固くする。中々いい戦い方だよ」

「はい！それじゃ行きますよ！アタックステップ！さっきのお返しにレイニードルとアンキラーザウルスでアタック！」

アタック宣言と共にアンキラーザウルスとレイニードル、二体の龍がアフローヌに突っ込んでいく。

「ふっ、どちらもライフで受けるよ」

アンキラーザウルスは尻尾のドリルを回転させて起こったトルネードを、レイニードルは口を大きく開いて光線をそれぞれアフローヌに放ち、周りに展開されたバリアを簡単に砕く。

”パリーンッ！”

「ッ！中々効くね」

痛みを喰らいつつも、笑みを浮かべるアフローヌ。

二体のアタックをライフで受けた事によってライフは3に減ったが、コアは7個に増える。

「俺はこれでターンエンドです」

第4ターン。

スタート、コア、ドローを行い手札は4枚、コアは8個に増え、その後リフレッシュステップを行い、疲労しているリユザードが回復する。

「さて、メインステップ。こっから俺のターンと行かしてもらっよ」

「はい！」

「カグツチドラグーンをLv・2で召喚！」

炎に包まれた竜、カグツチドラグーンが姿を現し、力強い咆哮を上

げる。

「さあ行くよ！」

「！」

「アタックステップ、カグツチドラグーンでアタック！」

アタック宣言をすると、カグツチドラグーンは翼を羽ばたかせ、和
人へと迫っていく。

「（次のターンを考えると、ライフで受けた方がいいな）ここはラ
イフで——」

「いや、君は必ずブロックしないといけない」

「えっ？」

「カグツチドラグーンは【激突】の効果を持ってるからね」

「しまッ！」

・【激突】効果説明

このスピリットのアタック時、相手は可能ならば必ずブロックしな
ければならない。

「さらにカグヅチドラグーンのアタック時効果で俺は1ドロー」

「くっ、アタックはディノニクソーで受けます」

”ギャオオオオオオオオオ——ッ！”

カグヅチドラグーンは咆哮を上げながら、ディノニクソーに向かって火炎放射を放ち、ディノニクソーも自分の火炎放射で迎え撃つが、BPは圧倒的な差で、すぐにカグヅチドラグーンの火炎放射に押されて、火炎放射を浴び、ディノニクソーは倒れてしまう。

「！」

「さらにリユザードLv.2でアタック！」

「ライフで受けます！」

「ふっ、フラッシュタイミング！マジック、フレイムダンスを使用！」

相手がライフで受けるのを宣言したと同時にフラッシュタイミングでカードを使用。

「マジックカード!？」

・フレイムダンス効果説明

相手のBP4000以下のスピリットを一体破壊。

「不足分のコストはカグツチドラグーンをLv・1にして確保。そしてマジックの効果でアンキラーザウルスを指定する」

「そんな!？」

アンキラーザウルスの足元に炎が現れ、その炎でアンキラーザウルスを破壊されてしまう。

「そしてリュザードのメインアタック!」

リュザードが突っ込み、ライフを砕けれ、後ろに弾かれる。
和人残りライフ4↓3。

「うぐっ!」

痛みが和人を襲うも、コアは7個に増える。

「うつ……」

「俺はこれでターンエンド」

——第5ターン。

「強い！だけど、このほうが俺はテンション上げ上げだあ！」

「へえ、君みたいな子、どこかで見た気がするよ」

「ん？」

「嫌、何でもない。続けてくれ」

「はい！」

スタート、コア、ドローステップ後、手札は4枚、コアは8個。
そしてリフレッシュステップ後、レイニードルは回復。

「行きますよ、オヴィラプトとサーベカウラスを召喚！」

オヴィラプトとサーベカウラスが現れる。

「さらにマジック！エクストラドローを使用！」

「手札増強系マジックか」

・エクストラドロー効果説明

デッキから二枚引いた後、三枚目をオープンして赤のスピリットカードなら手札に加える。

二枚引いた後、一瞬和人の眼が変わり、それをアフローヌは見逃さなかった。

「（あの内の二枚カード、一体？）」

そしてその後三枚目をオープン、しかし来たカードはマジックカードのドラゴンズラッシュのため、手札に加えられない。

「これでターンエンド」

「あれ？何もしないのかい？」

「今は守りを固めるのが優先ですから」

「さっきの戦いと一緒じゃないのかい？」

「鎌掛けようとしても無駄ですよ。状況判断して俺が選んだ結果です」

「なるほど、いい目だ。じゃあ君が選んだ結果がどうなるのか俺のターンで分かる」

第8ターン。

アフローヌはメインステップまでの準備を進め、手札は4枚、コアは9個に増える。

「（さてここからだが、相手のスピリットはレイニードールLv.2、オヴィラプト、サーベカウラスLv.2が一体ずつ。だが注目すべきところはあの子の手札にある）」

アフローヌは和人の手札を覗む。

「（さっきのエクストラードローで引いた二枚のカード、その内一枚はキーカードとなりうる高コストスピリットと見た。だから次に引くカードであるドラゴンズラッシュと組み合わせてのコンボを狙う。ならばその前にこのターンで決着をつけないければ）」

自分の手札を見て、アフロー又は笑みを浮かべる。

「メインステップ！リユザードをレベルダウン。さらにオードランを召喚」

コスト0のオードランが小さな翼をはばたかせながら地面に降り立つ。

「さあ行くよ！こっからが本番、覇龍ヴァダンライザーを召喚！」

「！？」

大きめのルビーが出現し、それが砕けると地面を突き破るように覇龍ヴァダンライザーが現れる。

「不足コストはオードランから確保」

オードランから一個は取り除かれ、オードランは破壊。

「さあ、覇龍ヴァダンライザーの召喚時効果発動！」

・覇龍ヴァダンライザーLv.1、2、召喚時効果。

このスピリットの召喚時、相手のBP3000以下のスピリットを全て破壊する。

「っ、つまり！」

「そう、君のオヴィラプトとレイニードルは破壊だ」

”グオオオオオオオオオ——ッ！”

覇龍ヴァダンライザーは炎を纏わせた腕を地面に叩きつけ、レイニードルとオヴィラプトの足元に火柱が立ち、それにより二体は破壊されてしまう。

「！」

「これで君のブロッカーはサーベカウラスだけ。行くよ、アタックステップ！覇龍ヴィダンライザーとリュザードでアタック！」

「！、ライフで受けます」

リュザードの突進とヴァダンライザーの拳が決まり、残りライフは1つとなり、コアは10個。

「まだまだ行くよ！カグヅチドラグーンでアタック！効果で一枚ドロ、さらに【激突】発動！」

「サーベカウラスでブロック」

サーベカウラスは受けて立つ素振りを見せ、こちらに向かって来るカグヅチドラグーンを見る。

「フラッシュタイミング！グレートリンクを使用！」

「！？」

・グレートリンク効果説明。
自分のフラッシュにあるコアすべてを、【覚醒】を持つ自分のスピリット一体の上に置く。

「コストはリザーブから確保し！このマジックでを使用した2コアを、さらに第7ターンでを使用した4コア、計6コアをサーベカウラスの上に置き、Lv.3にアップ！」

「！、これじゃあカグヅチドラグーンは返り討ちか」

カグヅチドラグーンの放った炎をサーベカウラスはジャンプで交わすと、カグヅチドラグーンに取り付き、爪をカグヅチドラグーンに突きたて、爆発が起こり、サーベカウラスはその爆風から飛び出して、和人のフィールドに戻る。

「だが、まだ俺のアタックは終了してない。リュザード！行け！」

「こつちもまだだ！フラッシュタイミング！フレイムサイクロンを使用！コストはサーベカウラスから使用！」

・フレイムサイクロン効果説明
BP5000以下の相手スピリットを一体破壊する。

「これによりリュザードを破壊！」

「！、まさかこの攻撃にカウンターをぶつけてくるなんてね」

「へっへ！どんなもんですか」

炎の竜巻にリュザードは吞まれ、破壊される。
これ以上は何もできないため、アフローヌはターンエンド。

—— 第9ターン。

「行くぜ！」

メインステップまでの準備を進め、手札は二枚、コアは11個。

「サーベカウラスをLv・1にダウン！」

「相手の手札は二枚、それでどうする気だい？」

「まだまだ！マジック、エクストラドローを使用！」

「！、手札増強系マジック、まだ仕込んでいたとは」

「二枚引いて、三枚目をオープン！そのカードは……」

そのカードを見て、和人は笑みを浮かべる。

「三枚目は剣龍王エクスキャリバス！」

「!?、ここで来たか……君にとって運命の一枚」

「このターンで決めて見せます！レイニードル、ロケケラトプスを召喚！そして、サーベカウラスを【転召】！」

・【転召】効果説明。

条件を満たしたスピリットのコアを指定場所に置いて、召喚できるスピリットの事。

サーベカウラスが赤い炎に包まれ、その炎の中に一つの影が……。

「炎纏いし龍の皇！剣龍皇エクスキャリバスを召喚！」

その影は炎を振り払い、火の粉でその身を輝かしながら力強い咆哮を上げる。

「うおおー……ッ！出たぜ！出たぜ！俺の運命のカード！エクスキャリバス！」

”グオオオオオオオオ——ッ！”

「なるほど、確にかっこいいドラゴンだな」

「さあ、まずはこいつの召喚時効果！」

・剣皇龍エクスキャリバスLv.1、2召喚時効果。
このスピリットの召喚時、BP合計6000分になるよう相手スピリットを好きなだけ破壊する。

「これにより、おじさんの場に居るヴァダンライザーBP4000とリュザードBP1000の二体を破壊！」

”グオオオオオオオオ——ッ！”

翼を羽ばたかせ空へと舞い、そのまま回転して自身の体に炎を纏わせてリュザードとヴァダンライザーに突っ込み、破壊する。

「！」

「そしてアタックステップ！剣皇龍エクスキャリバスでアタック！」

ヴィダンライザーとリュザードを破壊し、相手の場を一掃しただけでなく、このターンでエクスキヤリバス、レイニードル、ロクケラトプスでアタックすれば和人の勝利が確定する。もう目の前にある勝利を確信し、和人は笑みを浮かべる。

だが、アフローヌの実力はまだそんなに甘いものではなかった。

「フラッシュタイミング！」

「!？」

「マジック、ヴィクトリーファイアーを使用！」

「そ、そのマジックって!？」

・ヴィクトリーファイアー効果説明。
BP3000以下の相手スピリット、二体を破壊。

「これにより君のレイニードル、ロクケラトプスを破壊する！」
フィールドに突如Vの形をした炎が現れると、その炎はエクスキヤリバスのすぐ隣を突き抜け、後方に居るロクケラトプスとレイニードルを破壊する。

「嘘!？」

「エキスカリバスはライフで受ける」

エキスカリバスの炎を喰らい、残りライフは二つ。

「お、俺はこれでターンエンド」

第8ターンのカウンターをまさかのカウンターで返されてしまった和人。

これによりただ勝利を逃してしまっただけでなく、ブロッカーさえも残せなくなってしまったのである。

「じゃあ俺のターン」

コアステップ、ドローステップを行った後、自分の手札を見る。

「どうする？まだ続ける？」

「当たり前じゃないですか！フィールドに立ったら最後まで戦います」

「よく行った。それじゃあ続けようか」

手札の内、一枚に手を掛ける。

「君の相棒を見せてもらった礼に、俺も相棒を見せてあげよう」

「！」

「燃え上がれ赤き龍！熱く！激しく！魂の雄たけびを今ここに！！
霸王（ヒーロー）×レア、龍の霸王ジーク・ヤマト・フリードを召喚！」

突如雷雲が現れ、その雷雲に穴が開いたかと思うとそこから一体の龍が舞い降り、赤き炎に包まれた剣を握りしめ、後ろの雷鳴をバツクに唸りを上げる。

”グオオオオオオオオオオ——ッ！”

「こ、これが……龍の、霸王」

「終わりにしよう、アタックステップ、ジークヤマトフリード！決着をつけるぞ！」

「！……ラ、ライフで受けます！」

最後のライフをヤマトは赤き剣を振り下ろして砕き、ライフが0になったため、勝負がつく。

「いい勝負だったよ、運命の一枚に出会って君のデッキも進化したようだね」

「はい！ありがとうございます！」

試合を終え、バトルフィールドから出てくる二人。

そしてそんな二人の試合を見て観戦者達は、祝福の声を二人に送る。

「でも惜しい事を言うと、君はドラゴンズラッシュを使えずにいたね」

「え、ええ」

「まだまだ君のデッキも君自身も成長する。もっともっと頑張るんだよ」

「はい！」

「よし！じゃあ君の成長を記念して、これを送ろう」

「？」

アフローヌから一枚のカードを渡され、それを見ると、それはさっきの試合で使っていたヴィダンライザーだった。

「！？、いいんですか？Mレアなのに！？」

「いいんだよ。僕より君の方がそいつを存分に力を引き出せるし、なにより君のキースピリット、エクスカリバスと相性がいいはずだ。ぜひこれからも頑張ってよ！」

「はい！ありがとうございます！」

「よし、それじゃそろそろおじさんも行かないとな。今日は君みたいな強い子にもたくさん会えたし、またちよくちよくここに遊びに来るからその時はよろしくね」

「「「はい！」」」

その場に居た全員アフロヌに返事をする、アフロヌは笑顔でその場を後にした。

「よかったね。和人！強力なスピリットが手に入って」

「ああ！ヴィダンライザーが手に入ったのも嬉しいけど、何より俺の運命のカード！エクスカリバスと出会えたのが何より嬉しいぜ！」

「じゃあもつともつと強くならないとね！」

「ああ、今日は負けたけど、今後はもつとこいつの力を引き出して絶対勝つぞーッ！」

次こそ絶対に勝つという意思表示をしながら、その店を後にする和人と木野であった。

第2話『剣龍皇エクスカリバス爆進!』（後書き）

どうでしたか？第二話！

和人「俺の運命の一枚、エクスカリバス初登場の回だ!」

木野「運命の一枚、私も手に入りたいな」

和人「やっぱりバトスピは最高!まだ始めてない人もぜひ始めて欲しいぜ!」

木野「ルールについては『バトスピルール』と検索!」

和人「説明については他人任せ何だな」

木野「そんな事とはかく!次回もよろしくね!」

和人「お、俺からもよろしく!」

第3話『新しい出会い』（前書き）

始めました第三話！

今回もぜひ頑張って書いていくのでよろしくお願いします。

第3話『新しい出会い』

「じゃあ俺のターン！ブライトライデントを転召！」

バトルフィールドではなく、普通の台座でバトルしている和人と咲。そしてそのバトルの様子を映し出しているモニターの画面では、コスト3のブライトライデントが消滅し、エクスキャリバスが現れる。

”グオオオオオオオオオ——ッ！”

「召喚時の効果！BP合計6000分になるよう好きなだけ破壊」

「！？、ってことは」

「ガブノハシBP1000、ビートビートルBP1000、グラン
トベンケイBP4000、つまりお前の場のスピリット全てを破壊
！」

三対のスピリットが炎に包まれ、消滅してしまう。

「！」

「エクスキャリバスでアタック！」

「ら、ライフで受ける」

残り一個のライフをリザーブに下げ、ライフが0となる。

「よっしゃあゝッ！俺の勝ちだ！！！」

「はあゝ、負けちゃった。そのカード、エクスキャリバスを手に入れたから随分強くなったよね」

「まあな！あのおじさんに言われた通り、このカードに出会ってから一気に全てが変わったんだよね」

「まあ最近の戦い方を見る限り、守り重視から攻め重視の戦略に変わったよね」

「ああ、こいつと一緒にもっともって強くなっていく！」

そんな事を言いながら、台座から立ち上がり何かを決心したように他の人たちを見る。

「誰か、俺と一勝負しない？」

『じゃあ俺とやろうぜ！』

『いや、俺とやろう！』

さっきのバトルを見て、戦ってみたいと思ったのか数名のカードバトルー達は和人に勝負を挑む。

「よーし！かかってこい！」

デッキを持ち、対戦者とバトルを開始する。

「すっかり上達したようだね。和人君」

バトスピショップの店長である村井知恵。彼女は和人達の様子を見て微笑ましい物を感じていた。

”ウィーンッ”

「あっ、いらっしやい」

自動ドアの開く音がし、そこにはデッキケースを腰につけ、歳は和人達と変わらない少年が居た。

「すみません。第11弾のカードをくれますか？」

「はい。第11弾ね」

パッケージに太陽神龍が派手に飾られている第11弾のパックを渡すと、少年はそのパックを開き、中のカードを取り出す。

そしてカードを確認していき、その内の一枚がXレアである宝瓶神機（ほうべいしんき）アクア・エリシオンのカードだった。

「おめでとう！Xレア。当たってよかったね」

「ありがとうございます。このカード特に手に入れたかったカードなんです」

「そうなんだ」

「ええ、あいつとの再戦のために」

「？」

そんな中、カードバトラー達が何かでにぎやかになっている事に気づく。

「何かあるんですか？」

「まああるカードバトラーが大活躍ってところかな」

「面白そうですね」

そう言う少年はその場に近づいていく。

「暴双龍ディラノスLv・2でアタック！」

「キジトリアLv・2でブロック！」

互いのBPは5000。本来なら、二体とも相打ちだが、ここでディラノスの効果が発動する。

・暴双龍ディラノスLv・1、2、3の効果。

【覚醒】を持つ自分のスピリット全てにBP+1000。

・暴双龍ディラノスLv・2、3『お互いのアタックステップ時』

地龍を持つ自分のスピリット全てに【覚醒】を与える。

「よってバトルはディラノスの勝ち!」

「ぐっ!」

ディラノスの口から放たれる炎によってキジトリアは消滅。

「ロケケラトプスでアタック!これで決まりだ!」

相手のライフが0となり、和人の勝利となる。

『すげー、さすがは運命の一枚を持ったバトラーだぜ』
『もう5連勝以上してんじゃない?』

観戦者達の声、それを聞くと少年はぜひ自分も戦ってみたいと思っ

「さあ次は誰だ?」

「じゃあ、次俺とやらないか?」

「おっし!じゃあ早速やろう!」

振り返りお互い、顔を確認すると、何かに気付いたようで……。

「「あー……ッ！」」

互い互いを指さしながら、お互い驚いた表情を見せる。

「？」

何の事なのか全く分からない様子の観戦者達。
そこへ観戦者達を押しつけ、咲が来る。

「和人何騒いでんの？って……リクト君！？」

咲がリクトという少年。彼の名は来道リクトと言い、咲や和人達とは昔の幼馴染なのだ。

「随分懐かしい、ほんと久々だな」

「俺も、久々に会えてうれしいぜ」

「それよりしばらく見ない間に随分強くなったようだな」

「ああ！俺は運命の一枚って奴に出会ってな！」

「運命の一枚？」

「ああ、俺の運命の一枚！剣龍皇エクスカリバスだ！」

きらきらと輝くエクスカリバスを持ち、リクトに見せる。

「運命の一枚か、それって自分が何かを感じた一枚って事か？」

「ああ！その通り！！」

「それなら、俺にも運命の一枚と呼べるカードはある」

「！？」

「まっ、その一枚はバトルで見せる。それより、バトル始めないか？」

「ああ！」

「どうせなら、バトルフィールドでしないか？」

リクトの提案に和人は力強く頷き、二人はフィールドに立つ。

「ゲートオープン！開放！！」

二人は光に包まれ、リアルバトルフィールドへと移動する。

第3話『新しい出会い』（後書き）

いかがでしたか？

今回は咲と和人の幼馴染である来道リクトが登場！

さらに次回、いよいよリクトの実力を公開していききたいと思います！

リクト「問題はそれを早く書けるかだけだね」

和人「まあ更新ペース遅いから」

ちゃんと急いで書きます！

という訳で次回も宜しくお願いします

第4話『剣龍皇VS月光龍 炎と月の大激突!』（前書き）

はい!今日は出かける前に時間があつたので、書きあげている第4話を投稿したいと思います。

そして前回登場したリクトの实力はどれほどのものなのか!ぜひ一度ご覧ください!

第4話『剣龍皇VS月光龍 炎と月の大激突!』

光に包まれ、バトルフィールドに現れるリクトと和人。

「やっぱバトルフィールドだと、ものすごくテンションが高くなる」

「まっ、俺もお前もスピリットを間近で見たいと小さい時から思ってたっけな」

「ああ、その思いが実現できて!ホント幸せだ」

「ふ、余韻に浸るのはいいけど、さっさと始めようか?」

「そうだよな。じゃあ俺からの先行で!」

「構わない」

—— 第1ターン。

「それじゃあ、スタートステップ!」

和人からの先行で始まり、バトルが開始される。

「ドローステップ！、そしてメインステップ！」

手札のカードの内一枚に手を掛ける。

「ネクサス！」千識の溪谷”を配置！」

「ネクサスカード？随分珍しい」

「へへ！俺だってネクサスを配置するさ」

和人の後ろに”千識の溪谷”がまるで城のように現れる。

「へえ、ネクサスってこんな出方するんだ」

「おいおい、んな事は後だろ？」

「おっと、そうだった。俺はこれでターンエンド」

第2ターン。

「俺のターン、スタートステップ、コアステップ、ドローステップ」
コア、手札共に5つに増え、そしてリクトはそのままメインステップに入る。

「ノーザンベアードを召喚、Lv・2」

白いダイヤモンドが砕け、ノーザンベアードが現れる。

「俺はこれでターンエンド」

「あれ、何もしないの？」

「？、ノーザンベアードは守りに適したスピリット。ブロッカーとして残すのが普通だろ？」

「あつ、そーいやそーうだな」

「お前、まさか守り重視じゃなくなったからって、極端に攻めてばかりいるんじゃないだろうな？」

「……まあね」

軽く頬を掻きながら、リクトに伝え、少しあきれた様子だった。

「状況によつては、例え攻めに適した赤でもブロッカーに残せよ?」

「と、とにかく!これでターンエンドだよな」

「ああ」

——第3ターン。

「行くぜ!スタートステップ!」

そしてその後コア、ドローステップを行う。

コア5個 手札5枚

「レイニードルを召喚!」

レイニードルにコアが一つ置かれ、Lv・1でフィールドに出現する。

「そしてネクサス、”決闘台地”を配置！」

「またネクサスカ」

「そしてマジック！エクストラドローを使用！」

「！」

「このマジックはデッキから二枚ドローした後、三枚目をオープンしてそれが赤のスピリットなら手札に加える」

マジックの効果に従い、二枚をドローをした後、三枚目をドローする。

そしてその三枚目は”龍皇ジークフリード”なので、手札に加えられる。

「まだまだ行くぜ！バーストをセット！」

「！」

・バースト説明

裏向けのまま、専用場所にセットし、発動条件が満たされるまでそのままの状態のカード。

バーストがセットされ、リクトの目付きが変わる。

「俺はこれでターンエンド」

第4ターン。

（やっぱり和人、成長してるな。面白くなりそうだが、あまり長勝負をする訳にはいかない）

ある事がリクトの脳裏を横切りつつも、スタートステップを行い、メインステップまでの準備を終える。
コア、手札共に6つ。

「ノーザンベアードをレベルダウンさせて、レーヴァテインとミブロツクソルジャーを召喚！」

ノーザンベアードからコア一個を取り除き、レベルがダウンするも、レーヴァテインとミブロツクバラガンが新たに現れ、リクトのスピリットは計3体。

「ミブロックソルジャー召喚時効果發揮！」

・『ミブロックソルジャーLv.1、2召喚時効果』
相手スピリット一体を手札に戻す。

「つまりレイニードルを手札に戻す」

「！」

ミブロックソルジャーの刃から放たれた斬撃破がレイニードルに直撃し、レイニードルはその場から消え、手札となって和人の元へ戻る。しかし、それを見て和人には笑みが……。

「待つてたぜ！」

「何！？」

「バースト発動！マジック、双翼乱舞！！」

・双翼乱舞『効果説明』

バースト発動時、自分はデッキから二枚ドローする事が出来る。

「これで俺は二枚ドロー！」

「随分と手札を揃えていくんだな」

「まあ、手札あってこそその戦略だし」

「へえ、でもまだ俺のターン。続けるぞ、アタックステップ！」

「！」

「レーヴァテイン、ミブロックソルジャー、行け！」

「ラ、ライフで受ける！」

レーヴァテインとミブロックソルジャー、二体のスピリットが振り下ろす刃がプレイヤーに展開されたバリアを砕き、ライフで受ける痛みと共に残りライフが3まで削られる。

「ターンエンド」

第5ターン。

「スタートステップ！コアステップ、ドローステップ！」
コア8個 手札8枚。

「手札もコアも揃ってきたし、どういう戦略で行く？」

「さあな、メインステップ！レイニードルを再び、そして龍皇ジークフリードを召喚！」

コアが置かれ、雷雲からレイニードルが、そして地面から噴き上げた火柱の中からジークフリードが出現する。

「4コア追加でジークをLv・3に！そのままアタックステップ！ジークフリードでアタック！」

「ノーザンベアードでブロック！ブロック時効果発動」

・ノザンベアードLv・1、2のブロック時効果。
ブロック時、ボイドからコアを一つ、このスピリットの上に置く。

その特殊効果により、BPは5000になるも、龍皇はその二倍のBPを誇り、勝負は目に見えている。

予想通りジークフリードは向かってきたノーザンベアードを軽々と

持ち上げると、そのまま投げ飛ばし、ノーザンベアードを倒す。

「俺のターンはエンド」

—— 第6ターン。

リクトのターン、スタートステップ後、その後リクトはコア、ドロ
ーステップを行う。

コア7個↓8個 手札4枚↓5枚

「ここまでではほぼ互角。でも俺の元にようやくお気に入りの一枚が
来た」

「！、キースピリット！？」

「ああ、覚悟はいいか？」

「来い！」

「メインステップ、これが俺のキーカード！月光龍ストライクジ
クヴルムを召喚！」

白い月がフィールドを照らし、ストライクジークヴルムが姿を現す。

”ギャオオオオオオオオ——ッ！”

「！、ストライクジークヴルム！かつこいい！！」

「ああ。こいつを手に入れて、いつか間近でこのスピリットを見てみたいと心の底から思ってたからな」

「それ分かる！俺も今場にいるジークフリードとか、エクスキャリバスを間近で見てみたいと思ったしな！」

「ふっ、やっぱり和人は和人だな」

「？」

「何でもない。続けるぞ、レーヴァテインとミブロックスルジャーから全てのコアを外す」

二体のスピリットはコアを外したため、消滅。

「そしてそのコアを使って、鳳凰龍フェニックスヤノンを直接合体（ブレイヴ）」

翼を羽ばたかせながらフェニックキャノンが出現し、それが砲台のような姿に変わると、ストライクジークヴルムと合体する。

「！、すげー！合体（ブレイヴ）スピリット！」

「いちいち興奮しすぎだろ？」

「はは、テンションが高くなって」

「続けるぞ、フェニックキャノン召喚時効果でレイニードールと千識の渓谷を破壊」

ストライクジークヴルムから火球弾が放たれ、ネクサスとレイニードールが破壊される。

「！」

「アタックステップ、行け！合体スピリット！！」

「ラ、ライフで受ける！」

合体スピリットは翼を羽ばたかせ、空中を舞うと、強烈な荷電粒子砲が放たれ、展開されたバリアを簡単に砕き、残りライフは2。

「ターンエンド」

—— 第7ターン。

和人はメインステップまでの準備を進め、ジークフリードは回復。
そして手札は7枚、コアは10個となる。

「ネクサス、焰竜の城塞都市を配置。そしてディノニクソーを召喚。
ターンエンド」

—— 第8ターン。

「守りを固めるなら、攻め破るまでだ。スタートステップ」
コア、ドロー、リフレッシュステップを行い、合体スピリットは回復。

そしてコアは9個、手札は4枚。

「メインステップ、レーヴァテインを召喚。そして、フェニックキヤノンを分離させて、セイバーシャークを召喚」

フェニックキヤノンがストライクと分離し、今度はセイバーシャークとレーヴァテインが出現する。

「そしてセイバーシャークと合体！」

「今度は白のブレイヴか！」

セイバーシャークの形状が変わり、ストライクと合体すると粒子でできた刃のような物が出現する。

「そしてフェニックキヤノンからコアを外して合体スピリットをLv.3にアップ」

フェニックキヤノンが消滅するが、合体スピリットはレベル3となり、力強い咆哮を上げる。

「アタックステップ！合体スピリットでアタック」

「龍王ジークフリードでブロック！」

翼を羽ばたかせ攻撃を仕掛ける合体スピリット。

ジークフリードはそれを迎え撃とつと、翼を羽ばたかせ、合体スピリットに向かっていく。

二度、三度とXレア同士はぶつかっていき、お互いに弾かれ、距離が離れた時、龍皇は強烈な火炎放射を放つが、合体スピリットは素早い動きで炎を避けながら、ジークに接近していき、粒子の刃でジークフリードを貫き、ジークは爆発四散する。

「勝負あり！」

「ぐっ！」

「そしてセイバーシャークの召喚時と合体時の能力を発動」

「！」

・セイバーシャーク召喚時効果。

自分のスピリット全ての『ブロック時効果』を『アタック時』に発揮させる。

・セイバーシャーク合体時効果。

ブロック時、相手のスピリットだけを破壊した時、相手のライフを

一つリザーブに置く。

「つまりブロック時効果をアタック時に発揮するため、相手ライフを一つ削る」

「ぐっ、でもこっちだって龍皇の効果がある！」

・龍皇ジークフリードLv.3破壊時効果。

このスピリットが破壊された時、ボイドからコアを一つライフに置く。

「だからライフは減らない」

「ふ、だがまだアタックステップは続いている。レーヴァテインでアタック」

「ライフで受ける！」

レーヴァテインの振り下ろした剣によってライフが減られ、残りライフは一つとある。

「ターンエンド。絶体絶命だな」

——第9ターン。

「ライフは一つ。確かに絶体絶命だけど、最後の最後まであきらめないぜ！」

「その意気だ」

スタートステップ後、コア、ドローを行う。
コア13個、手札6枚。

「行くぜメインステップ！キングゴラドンを召喚！」

赤いルビーが砕け、怪獣とも呼べるような姿をしたキングゴラドンが出現する。

「さあ、ここで行くぜ！炎を纏いし龍の皇！剣皇龍エクスキャリバスを召喚！」

キングゴラドンが炎に包まれ、その炎に影が浮かび上がったと思うと、炎を振り払い、火の粉で身を輝かせながらエクスキャリバスが地面に降り立つ。

「来たぜ来たぜ！エクスカリバス！今日も頑張っていこうぜ！」

和人の言葉に応えるかのように、エクスカリバスは咆哮を上げる。

「これがお前のキーカード！」

「へへっ、続けて行くぜ！エクスカリバス、召喚時の効果でレーヴァテインを破壊！」

エクスカリバスは出現と同時に火炎放射を放ち、それによりレーヴァテインは破壊される。

「さらにリザドエッジを召喚してドラゴンズラッシュを使用！これにより古竜を持つスピリットがバトル勝利時、回復する」

「来るか！」

「ああ、アタックストップ！」

「来てみる。だがここで合体スピリットの効果発動！」

・月光龍ストライクジークヴルムLv.3『合体時』相手のアタックストップ時効果。

ステップ開始時、相手スピリット一体を指定し、指定されたスピリ

ットはこのターン、必ずアタックしなければならない。

「指定するスピリットはエクスキャリバス」

「指定されようが関係ない！端からアタックするつもりだ！行け、エクスキャリバス！！」

「迎え撃て、合体スピリット！」

相手スピリットのアタックによってストライクは回復し、エクスキャリバスと激突する。
エクスキャリバスと合体スピリットの翼が何度もぶつかり、激しい火花を散らす。

「フラッシュタイミング！マジック、バスターランス使用！これによりエクスキャリバスのBPを3000プラスして、BP、11000」

「無駄だ。こっちのBPは13000だ！」

「まだまだ！フラッシュタイミング、双光気弾を使用！」

「何！？」

「こいつの効果は、相手ネクサス、または合体スピリットのブレイヴを破壊する効果。よって、セイバーシャークを破壊！」

「しまった！」

一気に粒子の刃で切り裂こうとするストライク、しかし双光気弾によつて、セイバーシャークが破壊され、BPは10000にダウンする。

「こ、こんな事が！」

「決める！エクスキャリバス！！」

エクスキャリバスはその身に炎を纏わせ、そのまま炎を纏わせた突進をストライクに直撃させ、ストライクは破壊される。

「そ、そんな！」

「ドラゴンズラッシュの効果でエクスキャリバスは回復。そしてエクスキャリバス、ディノニクソー、リザドエッジでアタック！」

「フラッシュタイミング！ミストカーテンを二枚使用でディノニクソーとリザドエッジに対して使用！この効果によりディノニクソーとリザドエッジのアタックではライフが減らない！」

・ミストカーテン効果。
相手のスピリット1体を指定し、このターン、そのスピリットのアタックでは、自分のライフは減ない。

「だけど、エクスキャリバスのアタックは止められないぜ！」

「ぐっ……」

エクスキャリバスの炎によって、ライフが碎かれ、残りライフは4つ。

「手札とコア全て使用した強烈なアタック。随分手痛いぜ」

「へへっ、ターンエンド」

（さて、さっきのマジックで手札は使い切ったが、相手のスピリットは全て疲労、そしてライフは一つ。このターンのドローでスピリットカードが引ければ俺の勝ちだ）

スタートステップ、コアステップを行いそしてドローステップ。

「何が来る！」

山札から一枚ドロー、そしてそのドローしたカードを確認すると、それはガドファントだった。

「俺の勝ちだ。メインステップ！ガドファントをLv・2で召喚！」

白のダイヤモンドが砕け、ガドファントが出現する。

「アタックステップ！ガドファントでアタック！これで決まりだ！」

「いや、まだまだ！フラッシュタイミング、フレイムサイクロンを使う！」

「！？」

「フレイムサイクロンの効果は、BP5000以下の相手スピリット

ト一体を破壊。よってガドファントを破壊だ！」

炎を竜巻によって、ガドファントは破壊されてしまう。

「何でだ？さつきターンで手札全て使用したんじゃない？」

「俺のネクサス、焰竜の城塞都市の効果は自分のアタックステップ時、相手スピリットを破壊すれば一枚ドロウ出来るんだ。だから前のターンのストライクの破壊で、一枚ドロウ出来たって訳」

「しまった！ネクサスを見落としていた」

「どうする？」

「ぐっ、ターンエンド」

——第11ターン。

「行くぜ！スタートステップ！」

和人はその後、コアステップを行いコアは14個に増える。

そして次のドローステップ。

「今度は俺が引く番か」

「そうだな」

「そっちは手札もスピリットも0、こっちはスピリット三体。スピリットを引ければ俺の勝ちだ」

「続ける！俺も最後まであきらめない」

「行くぜ！ドローステップ！」

山札から一枚引き、そのカードを確認する。

「さあ、何が来たんだ？」

リクトの方を向き、和人は笑顔をリクトに向ける。

「行くぜ！巨竜ギガノトンを召喚！」

「！」

「今度は俺が言う番だ。これで俺の勝ち！アタックステップ！ディノニクソー、リザドエッジ！行け！！」

リザドエッジは回転しながら背中 of 刃を、ディノニクソーは火炎放射をリクトにぶつけ、ライフを砕く。

「ぐっ!!」

「これで決める！ギガノトン！エクスカリバス！その業火で幕を下ろせ！」

ギガノトンとエクスカリバス、二体の炎がリクトに決まる。

「ぐわぁッ!!」
ライフが0となり、勝負が決まる。

『うおおお、すげーバトル！』
『やっぱすごいな、二人とも』

観戦者達はフィールドから戻ってきたリクトと和人を尊敬するよう
に見る。

「やったね和人！見事に勝ったじゃない！」
咲は拍手をしながら和人に言う。

「ああ！」

「ふゝ、前あった時とは比べ物にならないほど強くなったな」

「へっ！カードバトラーは日々成長していくもんだぜ！」

「まあ、まだまだ俺のデッキ改善する余地ありか」

そう言いながら、その場を立ち去ろうとする。

「どこ行くんだ？」

「うん？実は明日とある奴とバトルするんだ。だからそのためのデッキ改造だ」

「誰と？」

「川村劉」

「「「！？」」」

その言葉を聞いて、その場にいた全員驚いた様子だった。

『川村劉って、チャンピオンシップに出てたやつだよな？』
『そんな奴とバトルするのかよ？』

『おい、それよりあのリクトって人、チャンピオンシップ一回戦で川村と戦ってなかったか？』

「えっ！」

ある一人の声から、全員「確かに」と言った様子でリクトを見る。

「まあそうなるな、けど俺はまだガンスリンガーをパス出来るハイランカーパスを持ってないし、実力としては全然だけどな」

「そう言う事じゃなくて、川村って奴とのバトルって事はリベンジ戦って事か？」

和人の質問にリクトは頷く。

「ちょっと待って！、和人ってリクトさんほどの人物に勝利できたの？」

「まあ、和人も相当な実力だし、今回は力及ばずってことだな」

リクトは笑いながら言う。

「んなことねえよ！俺は今回、運が良かっただけ。もしもう一回すれば俺が負けるかもしれない」

「おいおい、あまり謙遜するなよ。まあともかく今回はお前の勝ち、

ただそれだけだ。まあ長話してる場合じゃないし、そろそろ行こうかな」

「リクト！その川村って奴との試合！頑張れよ！！」
立ち去ろうとするリクトに言つとリクトは足を止める。

「まあ力を全部出し切るさ。試合場所はここ何だが、もしよかつたら見に来てくれよな」

「ああ、絶対行くぜ！」

リクトは笑みを浮かべると、その場から立ち去っていく。

「明日、川村って人とリクト君、どっちが勝つんだろうね？」

「さあな、どっちもチャンピオンシップに出場してるほどの実力だろ？すごい試合が期待出来るぜ！」

「じゃあ私はそろそろこの辺で」

「お、おおー！」

咲もバトスピショップを後にし、その場を立ち去っていく。

「リクトと川村って奴の勝負ぜひ見てみたい！それに川村って奴とぜひバトルしたいぜ！」

自分のデッキを見ながら、ただもつと強敵とバトルがしたいという願いを込めながら、ひたすらバトルに打ち解ける和人であった。

第4話『剣龍皇VS月光龍』

炎と月の大激突!』（後書き）

第4話いかがでしたでしょうか！

リクトのキーカード、「月光龍ストライクジークヴルム」今では少し古めのカードですが、その力は今も健在です。今ではすっかりバースト環境ですが、ブレイヴも決してそれに劣ってはいません。

そして次回、青デッキ使いの川村劉がついに登場！

次回、リクトとどのような試合を展開するのか、ぜひご覧ください。

第5話『川村vsリクト！ 青と白の大激突！』（前書き）

どうもブラストです！

やっと第5話を書き上げました！

ぜひその出来上がった作品を一目見ていただくと嬉しい限りです。
そして今回初登場の川村劉、彼の実力がこの話で明らかに！

川村とリクトの激しい試合をぜひご覧ください！

第5話『川村vsリクト！ 青と白の大激突！』

「じゃ！行つてきまーす！」

軽く手を振り、挨拶を済ませると家を飛び出しその場を駆け抜けていく和人。

彼が朝早くから駆けだすのは勿論理由がある。

昨日リクトが言っていた川村との試合があるからだ。

リクトも川村もチャンピオンシップに出場してるほどの実力。

そんな実力を持つ二人のバトル、和人としては何が何でも見逃す訳にはいかなかった。

「和人ーッ！」

「？」

突然の声に振り替えると、そこには息を切らしながら駆け寄って来る咲の姿が……。

「ハア……ハア……」

「随分息切らしてどうしたんだ？」

「どうしたって？和人も見に行くんでしょ？リクト君の試合」

「ああ！あれだけ強いリクトとその川村って人とのバトル、何が何でも見逃せないからな！」

「私も同じ、よかつたら一緒に行こうよ？」

「おお、良いぜ！でも全速力で行くから、追いつけるか？」

「ええー！？まだ時間的には大丈夫でしょ？ゆっくり行こうよ？」

「仕方ないな」

そんなやり取りをしながら二人は試合場所である、バトスピショッ
プへと向かうのであった。

——バトスピショップ

「いらっしゃい」

舞台は変わりバトスピセンター、店内にまた一人と入店者が入っていく。

客も増え、店長である村井はかなり陽気な様子。

今現在店内にはかなりの客が来ている。

いや、大半は和人達と同じリクトとか川村の試合を見に来た観戦者と言っていいだろう。

既にたくさんの人が来ているなんて事も知らず、遅れて和人と咲も入店してくるのだが……。

「いらっしゃい……って、和人君と咲ちゃんじゃない？随分遅かったね」

「随分ってそんなに遅かったですか？」

「まあ、他の人たちはとっくに来てるよ」

咲の言葉に村井は言うつと、既にほかの客達がたくさん来てる事に和人は気づく。

「うわあ、随分人で一杯。やっぱり早く来るべきだったよ」

「ごめんね」

額から流れる冷や汗を拭きながら言うつ咲。

『おい！和人！咲！』

「「リクト！？」」

振り向いた咲には、観戦者達を押しわけ、こっちに向かって来るリクトの姿が……。

「やっぱり見に来てくれたんだな」

「当然！お前の試合楽しみにしてるんだからな！」

「サンキュー」

和人の言葉に、リクトは笑いながら礼を言う。

「リクト君、随分自信があるみたいね？」

「当然！この日のために、デッキ構築は完璧に済ませたからな」

「へえ……」

「まっ、とは言っても気が抜けない試合になりそうだな」

「とにかく頑張ってね」

「おお。じゃあ俺、戻る。相手もそろそろ来る頃だしな」

「リクト！」

咲に言うと、リクトは戻ろうとするが、和人はそれ呼び止める。

「絶対勝てよ！俺、応援してるから！」

「ありがとな、力の限りつくしてやる」

軽くサムズアップを決めて和人に言うと、リクトは和人達の元を後にする。

”ウィーンッ!”

「いらっしゃ——」

お客かと思つて挨拶をしようとする村井、だが店内に入ってきた人物を見て一瞬言葉を詰まらせる。

そして他の観戦者達も気づいたのか、その人物を見た瞬間、一気にざわめきがなくなる。

まさしくその人物こそ、これからリクトと戦う相手である川村劉だった。

（あれが、前のチャンピオンシップでリクトと戦った川村って奴か）

和人達は川村の姿を見て、すぐに川村が強者であることを感じ取る。川村は、つかつかとリクトの前まで歩み寄っていく。

「随分待たせて悪かったね」

「いや大丈夫。それより役者はそろったし、始めようか？」

「ああ。少なくとも前のバトルよりかは楽しませてよね？」

お互いデッキを取り出し、互いの対戦者を睨む。

「始めるぞ！」

「ああ、いつでも」

「ゲートオープン解放！」

二人の言葉と共に、光に包まれ、リアルバトルフィールドへと舞台を移す。

『チャンピオンシップ出場者同士のバトル、どっちが勝つんだろう？』

『やっぱりリクトじゃない？ストライクとセイバーシャークの合体アタックで一気に勝負を決めるさ』

『いや、川村かな？あいつのTV試合を見たけど、オリハルコンやアレクサンダーを使つてのデッキ破壊は強烈だぜ？』

観戦者達はモニターでリクトと川村の様子を見ながら試合結果を予想する。

それを聞いてたのか、咲達も……。

「ねえ和人はどっちが勝つと思う?。」

「うーん、青のデッキ破壊は強力だけど、白はそれに対抗できるカードとかもあるからな。どっちが勝ってもおかしくない、すごい試合が期待できるぜ!。」

「それじゃあ、俺からの先行で始めるぜ?。」

「構わないよ」

第一ターン、リクトの先行で始まり、フレスヴェルガーを召喚してターンエンド。

第二ターン、川村はネクサス”崩壊する戦線”を配置してターンエンド。

第三ターン、ノーザンベアードを召喚して、フレスヴェルガーをLv・2にし、アタックステップへ。

「行け、フレスヴェルガー！」

「ライフで受けるよ」

フレスヴェルガーは翼を羽ばたかせ、川村に接近し、手に持っている銃を連射し、何発もの銃弾が展開されたバリアを撃ち抜いていく。

「ぐっ！」

後ろに交代させられるほどの衝撃と共に、ライフが減少し、残りライフは4。

「俺はこれでターンエンド」

——第4ターン。

「ふん、まだまだこんなもんじゃ押しきれないよ？スタートステッ

「プ！」

コアステップ、ドローステップを行った後、コアは7個、手札は5枚となる。

「リペアリングセーラスと、レチクルアームズを召喚！レチクルアームズの召喚時効果で相手デッキを三枚破壊！」

青いサファイアが二つ砕け、そこからリペアリングセーラスとレチクルアームズが出現し、さらにレチクルアームズの効果で和人のデッキから三枚のカードが破棄される。

「デッキ破壊、始まったか」

「まだまだ行くよ、ラッコセルアを召喚して、バーストをセット！」

（！）

リクトはそれを何かを警戒してるかのように眉間に皺を寄せる。

「行くよ、レチクルアームズとリペアリングセーラスを合体（プレイヴ）！」

レチクルアームズとリペアリングセーラスが合体し、レベルも2となり、BPは6000とパワーアップする。

「アタックステップ！合体スピリットでアタック！レチクルアームズの合体時効果で粉碎を発動！さらに崩壊する戦線の効果で粉碎で破棄する枚数を2枚追加」

・【粉碎】効果説明。

【粉碎】を持つスピリットのアタック時、そのスピリットのレベルと同じ枚数デッキを破棄する。

「粉碎を得ているリペアリングセーラスのレベルは2、よって二枚デッキを破棄、さらにリペアリングセーラスのアタック時効果でデッキを一枚破棄！さらにバーストをセットしてるため、コアを一つ、リペアリングセーラスに追加！」

リペアリングセーラスはそのままリクトに向かって駆け出すと、青い波動を放ち、それにより再びデッキから合計5枚のカードが破棄され、破棄されたカードの内、3枚はメガロツクとフィアラル、レーヴァティンのカード。

「ラッコセルアの能力発動、自分の粉碎を持つスピリットのアタックでスピリットカードを破棄した場合、コアを一つ追加する事ができる、よってリペアリングセーラスにコアを追加」

「攻撃はノーザンベアードでブロック。ブロック時効果でコアを一つノーザンベアードに追加、よってレベルアップ!」

向かって来るリペアリングセーラスをノーザンベアードが迎え撃つが、BPはリペアリングセーラスが上で、そのままリペアリングセーラスのドリルに貫かれ、破壊されてしまう。

「これでターンエンド」

”わああああっ!”

まだ序盤の内から、白熱した試合の展開に観戦者達は盛り上がっていた。

「すごいぜ、どっちも!」

「うん、それにリクト君や川村って人も、ノーザンベアードやリペアリングセーラスを使ってコアを積極的に増やしてるね」

「よく見てるな咲！」

「まあね」

「でも、一件川村が有利に見えてるけど、このターンで手札を4枚も使用したのは痛いぜ？ 対するリクトは手札を十分に所持してるし、まだまだ巻き返せるさ」

そんな事を言いながら二人は真剣に、モニターから行われる二人の試合を見る。

第5ターン。

「スタートステップ！」

リクトはその後、コアシテップ、ドローステップを行う。
コア6個↓7個。手札4枚↓5枚。

そしてその後、リフレッシュステップで疲労しているフレスヴェルガーが回復。

「俺はフレスヴェルガーをレベル3にアップ」

コア3個が起これ、フレスヴェルガーはLv・3となる。

「これでターンエンドだ」

「もう終わり？」

「作戦だよ、作戦」

——第6ターン。

「ふん、でも動かないのなら逆にそれを利用させてもらつよ？」

「？」

「スタートステップ！」

コアステップ、ドローステップを行い、コアは10個、手札は2枚となり、その後リフレッシュステップを行い、リペアリングゲセーラスは回復。

「合体スピリットをLv・1にダウンし、ネクサス” 柱岩の海上都市”を配置、そしてマジック、ハンドリバースを使用！」

「！？、緑マジック！」

・ハンドリバース『効果説明』。
メインの効果、自分の手札を破棄し、その後、相手の手札と同じ枚数になるまでドロー。

「こっちの手札はハンドリバースを使用して0になってるから、破棄する手札はない。そしてそっちの手札5枚と同じになるよう、こちらの手札を5枚ドロー」

手札0から一気に5枚となり、それにはリクトも驚く。

「ハンドリバースも仕込んでいたなんてな」

「まあ青は手札消費が激しいからね、十分大切な一枚となってる。まあ続けようか」

5枚となった手札を見ながら川村は考え込む。

「それじゃあ、アタックステップ！リペアリングセーラスを再びレ

ベル2して、アタック！」

リペアリングセーラスは川村の攻撃宣言と共に駆け出し、再びアタック時効果で合計5枚のカードが破棄され、コアが一つリペアリングセーラスに追加、さらに破棄したカードにスピリットカードがあるため、コアが一つラッコセルアに追加される。

「ライフで受ける！だが、フラッシュタイミング！デストラクションバリアを使用！」

「！」

「効果は前にも使った事があるから知ってるよな？転召を持たない、リペアリングセーラスのアタックでライフが減った時、リペアリングセーラスを破壊する」

リペアリングセーラスのドリルが展開されたバリアに直撃する。

「ぐあっ！」

衝撃と共に痛みがリクトを遅い、残りライフは4つとなる。

しかしデストラクションバリアの効果でリペアリングセーラスは破壊され、分離したレチクルアームズが場に残る。

「これでターンエンド」

第7ターン。

リクトはメインステップまでの準備を進め、コア、ドローステップを行った後、コアは9個、手札は5枚となる。

「メインステップ！フレスヴェルガーをレベルダウンして、”無限なる軌道母艦”を配置！」

フレスヴェルガーはレベルは1となるが、代わりにリクトの場にネクサスが展開される。

「さて、掃除の時間と行くか！鳳凰龍フェニツクキャノンを召喚！召喚時効果で、レチクルアームズとラッコセルアを破壊する！」

赤いルビーが砕け、フェニツクキャノンが空を舞いながら出現し、

出現と同時に空を舞い、地上にいるラッコセルアとレチクルアームズに火炎弾を放っていき、破壊する。

「そしてガドファントを召喚して、ターンエンド！」

白いダイヤモンドが砕け、鳴き声尾を上げながらガドファントが出現する。

—— 第8ターン。

メインステップまでの準備を終え、コアは12個、手札は6枚となる。

「メインステップ！じゃあそろそろ行こうか！ロックゴレムを召喚！ネクスス”柱岩の海上都市”の効果で、粉碎を持つロックゴレムの召喚でデッキを二枚破棄」

再び和人のデッキから二枚のカードが破棄され、ここまでで計15枚のカードが破棄されている。

「行くよ！天を貫く一本槍を使い、世界を揺るがす皇しき巨人！巨人大帝アレクサンダーをレベル2で召喚！」

突如光の柱が天から降り注いだかと思うと、大地を揺らす程の大きさを誇るXレア、巨人大帝アレクサンダーが出現する。

「さすがXレア、しかも巨人大帝ともなるとさらに大きく感じるな」

「ふっ、まあ続けよう！アタックステップ！巨人大帝アレクサンダーでアタック！さらに強襲発動！」

・【強襲】効果説明。

アタック時、ネクサス一つを疲労させる事でこのスピリットは回復する。

「ネクサス、崩壊する戦線を疲労してアレクサンダーを回復！さらにLv.2、アタック時効果でコスト4以下のスピリットを一体破壊する！」

「ちっ！」

アレクサンダーは駆けだしながら、槍を構え、それを勢いよく投げつけ、フレスヴェルガーを貫き破壊する。

「さらにこの効果で破棄したスピリットのコストと同じ枚数破棄、フレスヴェルガーのコストは3。よって3枚！」

リクトのデッキから再び三枚のカードが破棄される。

「そしてメインのアタック！」

「ガドファントでブロック！」

アレクサンダーはそのまま向かって来るガドファントを踏みつけ、破壊する。

「まだアレクサンダーは止まらない！もう一度行け！そして再び強襲の効果、柱岩の海上都市のを疲労させてアレクサンダーを回復！」

「ライフで受ける」

アレクサンダーは止まる事なく駆け出すと、そのまま槍を突き出し、展開されたバリアを突き刺し、リクトのバリアを砕く。

「ッ！」

残りライフ4↓3。

「ターンエンド」

——第9ターン。

リクトはメインステップまでの準備を終え、コアは11個、手札は3枚。

「さて、まさかここまで長期戦になるとはな」

「まあ、お互いここまでは場を固める戦術で動いてるからね」

「でも今は互いにコアも手札も貯まってる」

「ああ、だからここからが本番だね」

「その通り、お前がアレクサンダーを呼んだように、俺もこのバトルで選んだキースピリットを呼び出す」

「へえ、ストライクジークブルムでも呼び出す気？」

「違う、言つたろ？このバトルで選んだキースピリットってな！」

3枚の内の一枚に手を掛け、リクトは笑みを浮かべる。

「さて、俺も決め台詞って奴、決めてみるか」

「よほどすごいものが出そうだね」

「行くぞ！白き鎧を身に纏い、この地に光をもたらせ！水瓶座の光より、宝瓶神機アクアエリシオンをここに！！」

「！、十二宮×レアか」

突然空に水瓶座が浮かび上がり、その水瓶座から水流が現れ、その水流から光る眼が出現したかと思うと、水流を打ち払い、アクアエリシオンLv.2が水飛沫を浴びながら姿を現す。

「俺はこれでターンエンド」

「?、そこまでのスピリットを出しておきながら何もしないのか?」

「今アタックしても、アレクサンダーに阻まれる」

「ふん、臆したとみていいか?」

「さあな、ともかくターンエンドだ」

スタートステップ後、コアステップ、ドローステップを行ってコアは13個、手札は5枚。

そして次はリフレッシュステップを行うのだが……。

「じゃあ、疲労状態のネクサスとアレクサンダーを回復させる」

「いや、ネクサスは回復できないぜ？」

「！」

「アクアエリシオンの効果、リフレッシュステップ時、お互いスピリットは一体しか回復できず、ネクサス全ては回復できないって効果だ」

「ちいつ」

「まあ俺のデッキはネクサスが回復できなくても困らないが、そのアレクサンダーみたいに【強襲】を持ったスピリットを入れてるデッキには致命的だな？」

「ふん、ネクサスは疲労していても効果は持続するし、ネクサスに関しては新たに呼び出せばいい」

（切り替えが早い、あまり動揺は誘えないか）

「続けるよ、メインステップ！ネクサス”造兵工房”を配置し、ラ

イノセーラスを召喚」

再びネクサスが配置され、さらにライノセーラスが出現する。

「さあ行くよ、青き巨人、爪を振るいて全てを壊せ！神造巨兵オリハルコンゴレムを召喚！」

青のサファイアが砕けると、突如地割れが起き、その地割れからオリハルコンゴレムが唸りと共に出現し、ネクサスの効果が発動。粉砕を持つスピリットの償還でまた二枚のカードがデッキから破棄される。

「そしてアレクサンダーをレベルダウンさせ、ライノセーラスに3コア、オリハルコンに1コア追加して二体をLv・2に！」

コアが追加され、アレクサンダーは力が抜けるも、二体はレベルアップする。

「出たな、二体目のキーカード」

「ふん、アレクサンダーとオリハルコンゴレムをフィールドで揃えられるなんてほんと久々だよ。二体のXレアを呼び出させるでなんて、随分成長したみたいだね」

「俺の成長はんなもんじゃない。お前に勝つ事だ」

「それは無理、だって前の時と同じように、オリハルコンゴレムでジエンドだからね。アタックステップ。オリハルコンゴレムでアタック！」

オリハルコンゴレムは目を光らせ、リクトに迫ると同時にその力を発動する。

「オリハルコンゴレムは粉碎で二枚、さらに青のシンボル一つにつきデッキを一つ破棄する効果、今青のシンボルはネクサスが3枚、スピリットは自身を含め4体、さらに崩壊する戦線で二枚追加して合計11枚破棄、さらに強襲でオリハルコンゴレムは回復するから、ライフにしてもデッキにしてもこのターンで終わり！」

「いや、まだまだぜ」

「？」

「フラッシュタイミング、エターナルシールドを使用！」

「エターナルシールド！そんなカードを入れてたのか？」

「そ、お前対策その？だ」

・エターナルシールド効果説明。

このターン、自分のデッキは6枚以上破棄されない。

「だからオリハルコンゴレムの効果で俺のデッキは6枚しか破棄できないうえ、もう何をしてもこれ以上は破棄されない」

「ちいつ、だけどオリハルコンゴレムのアタックは継続中！」

「ライフだ」

オリハルコンゴレムの振り下ろした爪がリクトのライフを砕き、残りライフは2つとなる。

「ッ！」

「このターンで決める！ロックゴレムでアタック！」

「ライフ！」

今度はロックゴレムの拳がライフを砕き、残りライフは一つとなる。

「行け！ライノセーラス！！」

ライノセーラスは頭部のドリルを回転させながら駆けだし、リクトへと迫る。

「アクアエリシオンでブロック」

だがライノセーラスがドリルをリクトに突き刺す前に、アクアエリシオンは刃でドリルを受け止める。

「フラッシュタイミング、サイレントロックを使用」

「！？」

「合体していないスピリットのバトル終了時、相手のアタックステップを強制終了させる」

「ここまで追い詰めたのに……！」

拳を握りしめながら、サイレントロックを恨めしそうに睨む。

バトルの方では、BPが低いライノセーラスが不利で、アクアエリシオンの刃に切り裂かれ、ライノセーラスは爆発試算する。

「エターナルシールドの効果でライノセーラスの効果は不発。ターンエンドか？」

「ああ」

——第11ターン。

「さあて、そろそろ、終わらせようか！！」

コア13個↓14個。手札1枚↓2枚。

「ここから大逆転と行かしてもらっぜ！」

自分の場のアクアエリシオンは回復し、リクトは逆転宣言をし、勝利を確信するのだった。

第5話『川村VSリクト！ 青と白の大激突！』（後書き）

リクト「おいこら作者！何でここで終わりだ？」

作者「だってあまりに長文なりすぎたのでこらで一回区切らないとね？」

リクト「続きはいつ？」

作者「大丈夫、大丈夫明日では」

和人「ていうーか、俺の出番は？」

作者「という訳で、第5話は中途半端ですが、このあたりで区切らせていただきます。この続きは次回の第6話でぜひご確認ください！」

和人（この野郎……！無視しやるがとはいいい度胸だ）

咲「ま、まあ！リクトVS川村、次回決着なので続きをこうご期待ください！それでは次回もゲートオープン、解放！」

いかがでしたでしょうか？第5話！

川村VSリクトの大バトル！

川村のキースピリット、オリハルコン&アレクサンダーに対し、リクトは新たなキースピリット、アクアエリシオンで対抗！

第3話でリクトがアクアエリシオンを必要としていたのは川村とのバトルのためだったからでした。リクトと川村とのバトル、次回でついに決着ですのでぜひ一目見ていただければ嬉しい限りです。

次回第6話『十二宮バトル！天秤造神リブラゴレムVS宝瓶神機ア

クアエリシオン
『
ぜひご期待ください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6404x/>

バトルスピリッツ 激震の勇者

2011年12月2日18時52分発行